

◎経営の効率化（経営改善）について

1 数値目標

項目	19 年度実績	21 年度目標	21 年度実績	22 年度目標	22 年度実績	23 年度目標
1 病床利用率 (一般病床)	86.2%	86.2%	82.2%	86.2%	79.5%	86.2%
2 入院診療単価 (一般病床)	42,403 円	44,000 円	44,025 円	45,000 円	47,203 円	46,000 円
3 外来患者数 (本院外来)	1,060 人	1,060 人	1,004 人	1,060 人	953 人	1,060 人
4 外来診療単価 (本院外来)	7,683 円	7,800 円	8,400 円	7,900 円	9,021 円	8,000 円
5 医業収益	9,570 百万円	9,900 百万円	9,470 百万円	10,080 百万円	9,770 百万円	10,260 百万円
6 職員給与費比率 (公営企業年鑑基準)	58.6%	61.3%	63.5%	60.5%	63.0%	60.3%
7 経常収支比率 (公営企業年鑑基準)	104.6%	101.3%	100.8%	101.9%	102.0%	101.9%
8 救急入院患者数 ※	5,078 人	5,120 人	4,957 人	5,150 人	5,177 人	5,180 人
9 紹介患者率	46.2%	55%	48.4%	60%	53.3%	63%

※救急入院患者数：救急搬送以外の救急入院を含む

2 これまでの取組み

(1) 診療内容の充実を通じて医業収益の増を図る

・診療体制や診療内容を改善・充実し、「入院時医学管理加算（H23. 4～総合入院体制加算）」などの診療報酬の加算を取得している。

○医師事務作業補助体制加算 4（H21 年 12 月から）増収分 2 千 5 百万円程度/年

○入院時医学管理加算（H22 年 3 月から）増収分 8 千万円程度/年

○検体検査管理加算Ⅱ（H22 年 4 月から）増収分 1 千 1 百万円程度/年

・患者の状況に応じて、薬剤管理指導、栄養管理指導、リハビリテーションなどを的確に実施している。

○仙台市立病院経営計画に基づき年度毎に目標設定を行い、管理・評価を行っている。

・薬剤管理指導 H21 実績 163 件/月・人 H22 実績 163 件/月・人

・入院栄養食事指導件数 H21 実績 1,632 件 H22 実績 1,860 件

・リハビリテーション総合計画評価件数（入院）

H21 実績 544 件 H22 実績 696 件

(2) 救急患者や紹介患者の一層の受入れに努める

・救命救急センターの運営方法を随時見直すなどにより、入院が必要な重度の患者を中心に、救急患者の受入れ増に努めている。

○救命救急センター病床の効率的運用のため、空床情報の共有化を図るとともに、

3 階東病棟の運用ルールを作成・実施している。また、市民に救命救急センターの

役割周知等のため、ホームページ掲載情報の全面改訂などを行っている。

- ・地域の医療機関との連携強化や予約制度の改善などにより、紹介患者の受入れ増を図っている。

○地域の医療機関との連携強化を図るため、登録医懇談会の開催や登録医への訪問等を実施するとともに、登録医になっていない医療機関に対して登録医制度の周知を図っている。

○医療連携室経由の予約診療枠の拡大、予約方法の簡素化などを実施している。

### (3) 費用を適切に管理し、効率的な事業運営に取り組む

- ・新病院を見据えたスタッフの確保を図りながら、職員配置の適正化を行う。

○従来市長部局からの出向職員が行っていた業務について専門職員の採用を行うとともに、非常勤職員を積極的に活用することにより、事業運営の効率化を図り、併せて新病院に向けた体制整備を進めている。

- ・診療情報管理士の採用（H22. 4～/H22 採用3名、H23 採用2名）
- ・医療ソーシャルワーカーの採用（H24. 4～/H24 採用2名程度の予定）
- ・医師事務作業補助者（非常勤嘱託職員）の採用（H21. 10 採用12名）
- ・看護補助者（非常勤嘱託職員）の採用（H23. 7 採用16名）

- ・後発医薬品の比率の向上、競争入札比率の向上などにより、経費・材料費を削減していく。

○他病院の実績調査等を行い、徹底した競争と交渉による材料費（診療材料、薬剤費など）及び経費（委託料、賃借料など）の削減

H21 削減額 材料費 約6千3百万円 経費 約 5百万円

H22 削減額 材料費 約5千8百万円 経費 約1千1百万円

○後発医薬品の導入による薬剤費の削減

	H21 実績	H22 実績
費用削減効果額（推計値）	100,000千円	82,000千円
購入金額比率	13.9%	11.2%

## 3 評価及び今後の対応

- ・経営改善の取り組みについては、医療を取り巻く環境の変化に対応し、毎月開催している経営委員会において適切な進捗管理を行うとともに、状況に応じて適宜優先順位や内容を見直し進めてきたところである。数値目標については、医業収益や病床利用率などは目標を下回っているが、診療単価は目標を大きく上回り、その結果、最も重要な指標である経常収支比率が目標を上回るなど、一定程度の達成状況となっている。

- ・医療技術の進歩等により、平均在院日数が短縮化し、病床利用率が低下してきている。今後は、これまで以上に地域の医療機関と機能分担・連携を図りながら、救急や紹介患者を積極的に受け入れ、高度医療を提供して、診療単価の上昇と病床利用率の回復により、医業収益の確保を図っていく。

- ・職員給与比率に関しては、新病院に向けて必要な人材を確保するため、引き続き前倒しで職員採用を行う計画であるが、今後とも人件費の適正化と業務の効率化に継続して取り組んでいく。